

補助事業概要の広報資料

補助事業番号：23-01-110

補助事業名：平成23年度 学術・文化の振興のための活動 補助事業

補助事業者名：財団法人 中近東文化センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

トルコ共和国の中央部に位置するカマン・カレホユック遺跡には、古代オリエント世界の歴史そのものが凝縮されている。この遺跡における発掘調査を通し、世界の共有財産である文化財遺産の発掘調査、修復、保護を実践することにより、世界の考古学、歴史学に寄与するのみならず、グローバルな視点に立った日本の文化行政を考えることのできる研究者を養成し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア. 考古学の発掘調査研究者養成（現地）

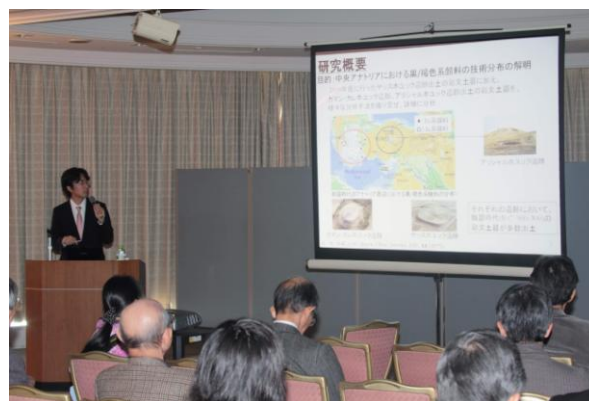
カマン・カレホユック遺跡発掘調査



平成 23 年度の出土遺物、遺構の保存、修復に関する研究者養成は、第 26 次カマン・カレホユック発掘調査と、第 3 次ヤッスホユック発掘調査と併行して行なった。当年度のカマン・カレホユックの発掘調査は 6 月 30 日から 9 月 5 日まで、ヤッスホユックの発掘調査は 9 月 5 日から 11 月 4 日まで行った。カマン・カレホユックにおいては、遺跡の北側に設置した発掘区（北区）で前期青銅器時代から中期青銅器時代の文化層、遺跡の南側に設置した発掘区（南区）では初期鉄器時代の文化層を中心に調査を行い、発掘終了後は遺物の整理・保存修復等の作業、発掘した遺構の保存作業等に入った。なお当年度も、現地において考古学フィールドコース（第 1 回：7 月 7 日～7 月 22 日／第 2 回：7 月 25 日～8 月 6 日／第 3 回：8 月 8 日～8 月 20 日／第 4 回：9 月 12 日～9 月 24 日）を開催し、総勢 12 名の学生が参加した。期間中、学生、若手研究者らは発掘現場で調査を実際に行ないながら、直接専門家の指導を受け「文化財」の取り上げ、保存、修復に関する技術を習得に努めた。また、キャンプ内においても専門家による修復等に関する講義が集中的に行なわれた。作業終了後は、キャンプのミーティングルームで専門家を交えて、各自の報告、討論が行なわれた。当年度もカマン・カレホユック考古学博物館（外務省 ODA により建設）において、発掘現場から出土した遺物が展示されているのを実際に目の前にしながら授業を行った。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

2010-2011 年度トルコ調査報告会・第 21 回トルコ調査研究会



当年度は、12 月 17 日（土）にトルコ調査報告会、18 日（日）に研究会を、武蔵野レインボーサロン（東京都武蔵野市）を会場として開催した。

昨年度のトルコ調査報告会・研究会は東日本大震災の影響により開催を見合わせたため、今年度は、2010-2011 年度トルコ調査報告会として 2 年間の報告をし、第 21 回研究会は、昨年度発表

予定だった研究成果を基本に新たな情報を加えての発表となった。

(3) 成果

ア. 考古学の発掘調査研究者養成（現地）

第26次カマン・カレホユック発掘調査

考古学フィールドコース

準備作業、発掘調査、整理作業と約6ヶ月間に渡って行なわれた本補助事業の現地での活動では、例年のように出土遺物-土器、青銅製品、鉄製品、土製品、石製品、獣骨、人骨、コイン、炭化物等-の取り上げ方、保存修復の技術、発掘現場の建築遺構の保存、修復等、多岐に渡る指導が行われた。現場において出土する遺物、遺構の最良の保存方法は決して一様なものではなく、素早い判断を必要とするものもあるため、豊富な知識と経験による処理が求められる。特に学生たちにとっては、保存修復専門家による各々の遺物、遺構に適した取り上げ方や保存方法の指導を行えたことは、将来にも大きな意味を持つものと言えるだろう。また、昨年引き続きカマン・カレホユック考古学博物館（外務省 ODA により建設）において授業も行った。参加者にとっては、発掘現場から出土した遺物が展示されているのを実際に目の前にしながらアナトリアの歴史を体感できる授業であり、また自分たちが発掘した遺物がこのような形で修復、保存され、博物館に展示されることを自分の目で見ることのできるよい機会であっただろう。今後、日本に戻った参加者が「文化財保存」を実行して行く上でたいへん有意義な経験であったと考える。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

2010-2011 年度トルコ調査報告会・第21回トルコ調査研究会

今年度は、2010-2011 年度トルコ調査報告会として2年間の発掘調査の成果を報告した。

また、第21回トルコ調査研究会では、昨年度発表予定であった研究成果に、新たに導きだされた結果や、さらに考察された結果を加えて発表することができた。また、例年のような研究発表だけでなく、研究者による討論の時間を設けた。それぞれの研究者の考えをぶつけ合った討論の時間は非常に有意義なものとなり、今後の研究の発展に期待するものである。

2. 今後予想される効果

ア. 考古学の発掘調査研究者養成（現地）

本補助事業において、「発掘調査」、「文化財保存」は完全に一体化したものであり、どちらも等しく重要なものと捉えている。参加した学生にとって、発掘現場で作業し、そこから出土

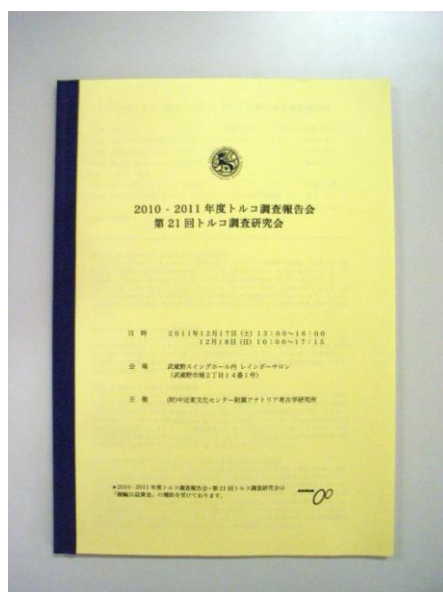
した遺物の保存修復作業を学んだことは、非常に貴重な経験となったはずである。ここで学んだ「文化財保存、修復」技術は、日本国内の現場に活かせるものと確信している。また、このようなシステムは、今後の日本における「文化財保存」に強く影響を与えるものと考えられる。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

参加者の多くは一般の人々であり、その比率は年々増えている。今後さらに一般の人々の注目を集めて行くことになるだろうと考えている。そして日本人にとって、少々遠い存在であったオリエントの歴史がもっと身近に感じられるようになって行くものと期待している。

3. 本事業において作成した印刷物

2010-2011 年度トルコ調査報告会・第21回トルコ調査研究会 資料集



*2010-2011 年度トルコ調査報告会・第21回トルコ調査研究会は「競輪公益資金」の補助を受けております。

4. 事業内容についての問い合わせ

団体名称： 財団法人 中近東文化センター

(ザイダンハウジン チュウキントウブンカセンター)

住 所： 181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-31

代表者名： 理事長 阿部 知之 (アベ トモユキ)

担当部署： アナトリア考古学研究所 (アナトリアコウコガクケンキュウジョ)

担 当 者： 研究員 吉田 大輔 (ヨシダ ダイスケ)

電話番号 : 0422-32-7665

F A X : 0422-31-9453

E-mail : tokyo@jiaa-kaman.org

U R L : <http://www.jiaa-kaman.org/jp/index.html>